木漏れ日の中のシュンラン（4月の自然庭園では）～みぬま見

このページを印刷する

～

このページでは大宮南部浄化センター・みぬま見聞館のトピックスを紹介をします。

木漏れ日の中のシュンラン（4月に自然庭園で観察できる動植物について）

自然庭園では、冬ごもりの虫たちが地中から這い出てくることを意味する「啓蟄」（けいちつ）を過ぎ、花残月（はなのこりづき）の別名が示すように、桜をはじめ様々な花々を楽しむことができる季節を迎えようとしています。
今月は、そんな自然庭園で、木漏れ日が差し込む木陰に、ひっそりと可憐な花を咲かせているシュンランについて、お話をさせていただきます。

シュンランは、北海道から九州までの広い範囲に生息し、埼玉県では、準絶滅危惧のカテゴリーにランクされています。
花は、蝶が羽を広げたようなラン科の特徴的な形をしていて、淡い黄緑色の3枚の萼片（がくへん）と2枚の側花弁（そっかべん）、赤紫色の斑点模様の1枚の唇弁（しんべん）を持ち、中心におしべとめしべがまとまった蕊柱（ずいちゅう）と呼ばれる器官があります。
名前の由来は、春に咲く蘭からと言われていますが、古くは「らに」と呼ばれていて、唇弁（しんべん）に点在する斑点模様からホクロとか、萼片（がくへん）がほっかむりをしているおばあさんと白いひげのおじいさんに見えることから爺婆（ジジババ)とか、拳骨挟み（ゲンコツバサミ）、天狗花（テングバナ）などと呼ばれることもあるそうです。
香りは、3大フローラルノートと呼ばれる良い花の香りの代表であるバラ、ジャスミン、スズランのうち、ジャスミンやスズランに似た甘い香りがします。また、その香りの成分であるジメチルハイドロキノンには、覚醒効果もあるそうです。
他にも、花を梅酢に漬けてから塩漬けしたものを、お湯に入れた蘭茶は、大切なお客様のおもてなしに、根を指でもみ、お餅のようになったものは、あかぎれの薬に、果実は止血にと、様々な利用価値のある植物でもあります。

1月の放送でご紹介した、現代の年号である令和の語源ともなった万葉集の歌「初春（しょしゅん）の令月（れいげつ）にして、気淑（きよ）く、風和（かぜやわら）ぎ、梅（うめ）は鏡前（きょうぜん）の粉（こ）を披（ひら）き、蘭（らん）は珮後（はいご）の香（こう）を薫（かお）らす」のランは、このシュンランであるともいわれています。

本来、植物は光合成を行うのが普通なのですが、ラン科の植物は、その進化がとても面白く、完全に光合成により養分を得るもの、光合成と他の植物や根に共生する菌類から養分を得るもの、光合成をすることを放棄し、成長に必要な養分を別の生物に依存するものなどに分かれるそうです。
シュンランは、光合成を行うとともに、共生する菌類からも養分を得ている部分的従属栄養植物なので、冬や早春でも十分な栄養を確保することができ、開花することができるのだそうです。
ちなみにシュンランの花言葉は、飾らない心、控えめな美、気品です。

残念ながら日本のシュンランは、中国のシュンランに比べ、香りが薄いようですが、観賞用の蘭と比べ、と

ても地味なようで、実は美しく気品にあふれたシュンランの花を見に「みぬま見聞館」の自然庭園を訪れてみてはいかがでしょうか。

シュンラン
自然庭園では今年も健在です

シュンランの花
美しく気品にあふれています

ニリンソウ
名のとおり2輪ずつ花が咲きます

ボケの花
たくさんの花を春先から咲かせます

アメリカヤマボウシの花
いわゆるハナミズキの花です

タチツボスミレの花
薄紫色の花が静かに咲いています

ヒメオドリコソウ
ちょっと散歩をすると出会える花です

ヒトリシズカの花
自然庭園でもひっそりと咲きます

アケビの花
花もキレイですが実がなるのが楽しみです

ヤマブキの花
一斉に咲き誇る様子は圧巻です

ユキヤナギ
満開の様子は名のとおりです

キジムシロの花
キレイなカタチ、鮮やかな黄色の花です